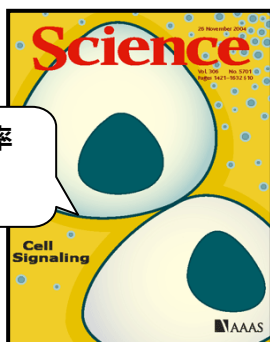


一流誌の論文審査 (レフェリー・システム) と 採用率



採用率 10%



2004.12

産業医科大学図書館

はじめに

Nature誌などの一流誌に論文投稿をめざすには、雑誌の特色や論文審査(レフェリーシステム)の方針を知ることが必要です。Nature誌などの論文審査の実態や採用率についてまとめています。

目 次

1	日本からの投稿率とインパクトファクター	3
2	論文審査(レフェリーシステム)とは	3
2-1	論文審査(レフェリーシステム)の仕組み	3
2-2	運用／2-3 論文審査の新しい動き	4
3	Nature誌	
3-1	Nature誌の紹介	4
3-2	論文審査	5
3-3	採用率／3-4 掲載するのはどんな論文	5
3-5	論文掲載に向けた7つのステップ	7
4	Lancet誌	
4-1	Lancet誌の紹介	8
4-2	論文審査	8
4-3	採用率	8
4-4	執筆の際の注意事項／4-5 執筆規定概要	9
5	New Englan Journal of Medicine (NEJM) 誌	
5-1	NEJM誌の紹介	10
5-2	論文審査	10
5-3	採用率／5-4 執筆規定概要	11
6	Science誌	
6-1	Science誌の紹介	11
6-2	論文審査	12
6-3	採用率／6-4 執筆規定概要	12
7	Annals of Internal Medicine誌	
7-1	Annals of Internal Medicine誌の紹介	13
7-2	論文審査	13
7-3	採用率／7-4 不採用になった論文の運命	14
8	The Journal of the American Medical Association(JAMA)	
8-1	JAMA の紹介	15
8-2	JAMA日本語版の紹介	15
9	British Medical Journal (BMJ) 誌	
9-1	BMJ誌の紹介	16
9-2	BMJ誌の採用率	16

1. 日本からの投稿率とインパクトファクター

IF 順位	雑誌名	日本の 論文数	全論 文数	日本論 文比率	IP
1	N Engl J Med	9	2411	0.37%	34.833
2	Nature	98	7879	1.2%	30.979
3	Science	78	4125	1.9%	29.162
4	JAMA	1	4435	0.02%	21.455
5	Lancet	45	8605	0.52%	18.316
6	Ann Intern Med	8	1041	0.76%	12.427
7	BMJ	1	4739	0.02%	7.209

2. 論文審査 (レフェリー・システム) とは

レフェリーシステムは、科学情報の生産と伝達プロセスにおいて欠くことのできない役割を果たしています。

研究論文の評価を行い、信頼性の高い情報を人々へ提供していく「質のフィルター」です。さらに、このような投稿された論文を選別するフィルターの役割だけではなく白熱した討論の場を提供しています。

歴史的にみると、1665年に創刊され、その後の学会誌のモデルとなった Philosophical Transaction 誌は、編集者と英国王立協会 (Royal Society) の評議会メンバーによって論文が審査され、十分なものであるとみなされると印刷にまわされていました。

2-1 論文審査 (レフェリー・システム) の仕組みは

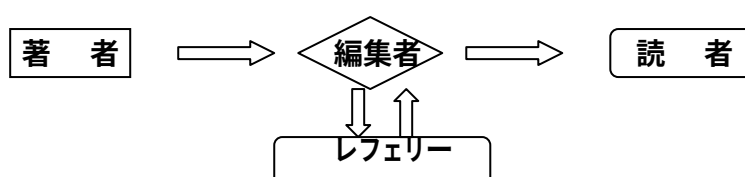
論文審査には、2方式があります。

初期は、委員会内部でなされていましたが、近年になり投稿量の増大と論文内容の専門化の進行が顕著になり、外部の専門家 (レフェリー) に依頼するようになりました。

(1) 編集者による論文審査は行われるが、外部の専門家にレフェリーを依頼しない方式



(2) 外部専門家 (レフェリー) による審査意見を参考にして、編集者が採否に決定を行う方式



2-2 論文審査 (レフェリーシステム) の運用は

一般的に1論文に対して2名のレフェリーが指名され、3～4週間を費やして論文審査が行われています。

多くの雑誌で、レフェリー名を投稿者に知らせずに、一方でレフェリーは著者が誰であることを知っているという“Single blind 制”が採用されています。

2-3 論文審査の新しい動き

1999年1月2日のBMJ 誌 (British Medical Journal) 318巻で、編集員長の Richard Smith氏は、論文審査の匿名性をめぐる新しい提案を行いました。

それは、レフェリー名を匿名にせず公開して審査するというものです。

レフェリー名をオープンにすることは、論文審査をめぐるアイディアの盗用や引き延ばしといった匿名性に隠れた審査の乱用を除去できるのではないかと。さらに、電子ジャーナルが確立し今日では、著者と読者との直接的なリンクが一層強まる傾向にあり、論文を媒介とした著者、レフェリー、読者の相互のコミュニケーションが緊密になるだけに、オープンな論文審査システムの確立が要請されると結論づけています。

それを受けて、最近の科学コミュニケーションの世界は急速に匿名性から離れています。

3. Nature 誌

3-1 Nature 誌の紹介



編集責任者: Philip Campbell

ISSN: 0028-0836

インパクトファクター: 27.955*

創刊年: 1869 年

Nature 誌は、世界中の科学情報をタイムリーに伝える週刊誌で、世界でクオリティー、インパクトともに認められており、厳しいピアレビュー、編集の独立化などにより高いクオリティーを保っています。誌面は論文だけでなく、論説、ニュース、書評、研究者の視点から科学概念を探る「concepts」、論文解説と、幅広い内容で構成されています。日本語セクションには、ハイライト、目次、論文の要約が日本語で記載され、日本の読者が素早く内容を把握できるように工夫されています。

3-2 Nature誌の論文審査 (レフェリー・システム)

『Nature』誌投稿案内より転載

論文が十分に興味深い内容であり、レフェリーに送るべきとネイチャーがひとまず判断すると、担当編集者は2、3人のレフェリーを選びます。レフェリーには、論文の専門的な側面を完全かつ公正に評価できるその道の専門家が選ばれます。

レフェリーを選ぶ基準とは、

- ①候補者自身がネイチャーに関連論文を投稿中でないかどうか。
- ②最近他の関連論文のコメントをネイチャーから依頼されていないかどうか。
- ③レフェリーのその後1ヶ月の予定はどうか。
- ④専門分野がほかの候補者とうまくかみ合うかどうか。
- ⑤ネイチャーに対するそれまでの仕事ぶりといったことです。

編集部では、さまざまな国の数人の科学者と連絡を取って、(地理的条件にかかわらず)最も適切なレフェリーが論文を読んでもくれるよう取り計らい、また、彼らが2週間に評価してくれることを確認してから論文を送ることにしています。

3-3 Nature誌の採用率

年	採用率	投稿された論文数	受理・掲載された論文数
1997	13%	7,680	999
1998	9.6%	7,820	756
1999	12.6%	8,058	1,013
2000	11%	8,643	952
2001	10.3%	8,830	907

3-4 Nature誌が掲載するのはどんな論文

『Nature』誌投稿案内より転載

ネイチャーには科学および技術のあらゆる分野の研究成果が掲載されます。毎週投稿される論文は150本ほどですが、誌面はおよそ20本分です。では、この限られた誌面をしっかりと勝ち取るための基準とは、どんなものでしょうか。

(1)オリジナル性

最も重要な基準は、独創的な研究だということです。

つまり著者(たち)独自のオリジナル研究であって、研究の要の部分が他の媒体で公表されていないことです。

(2)重要性

同じ分野の科学者にとって重要な研究であること。この判定は通常、ネイチャーの編集者が行い、これを助けるものとして、レフェリーによる公式のレポートもしくは電話やEメールによる非公式の助言を得ます。ただし、投稿された論文の多くはレフェリーに送られることなく返却されます。これは、ネイチャーの編集者が論文を専門的見地から見て誤りがあると考えたためではなく、新しい概念の創造に至るにはまだ途中段階にあるとみなしたからです。

(3)学際性

他分野の研究者にも関心をもたれる論文であること。ネイチャーは総合科学誌として、かなりの割合の読者が自分の研究分野以外の研究に大きな関心をもっていると考えられるからです。

(4)わかりやすさ

ネイチャーでは、論文があまり無理なく理解できるものであって欲しいと考えています。これは、言葉使いや文章形式の問題というより、むしろ明解さや表現方法の問題です。英語を母国語としない研究者が、論文の文法がかならずしも正しくないようだからといって差別を受けることはありません。ネイチャーの使命は、興味深い科学の研究成果を報告する論文を掲載することであり、担当編集者は論文著者が正確な英語で研究成果を報告できるよう喜んで力添えいたします。ネイチャーの編集者の多くは英語を母国語としない国の出身者です。英語にさほど慣れ親しんでいない読者を相手にする場合に不可欠なのは、論文を投稿する際に科学的成果が確実に伝わるように、できるだけ簡潔かつ明解に説明することです。

(5)意外性

週刊誌という性格上、研究成果に多少は意外性を含んだ論文を選ばねばなりません。これは、例えば、それまで知られていない現象を報告したり、それまでに広く認められていた仮説を否定したりする論文ということです。つまり、永久運動はありえないということを示すよりも、永久運動がありうると思わせるような報告のほうが掲載を優先されることになります。

(6)エレガンス

ネイチャーが掲載を優先する研究とは、相違工夫、エレガンス(精緻にして簡潔であること)、手際のよさが際だったものです。これらは、すでに確立されている結果と同じ結果を、抜本的に簡素化した方法や斬新なテクニックで導き出した研究などです。また、一つの分野の知識を他分野に利用しその分野の発展を促すような研究も同じです。

以上のすべての要素が、ネイチャーに掲載される論文すべてに含まれているわけではありませんが、掲載される論文は1つ以上の要素を満たすのが普通です。

ネイチャーでは、まさにテクニカル面の発展に関するものであっても重要なものや、現在のところ、うまく説明がつかない興味深い観察結果などを端から排除することはありません。ただし、この類の論文はどちらかというと、誌面が足りないという理由から掲載をめぐる競争で勝ち残れない傾向にあるようです。

3-5 論文掲載に向けた7つのステップ

『Nature』誌投稿案内より転載

投稿前に……

- ステップ1 : [基準の考慮]** あなたが論文で報告したい成果は、すくなくとも前頁にあげた基準項目のいくつかに当てはまるでしょうか。
- ステップ2 : [投稿の手引き]** 論文を準備する時にこの指針にそったものにすることが賢い方法です。是非目を通してください。こうすることで、掲載までの時間が短くなるはずです。
- ステップ3 : [原稿の送付]** オンライン投稿を歓迎します。送付する場合は、日本からはロンドンのオフィス宛としてください。論文をEメールやファックスで投稿しないようにご注意ください。

投稿後……

- ステップ4 : [編集部での審査]** すべての原稿を公式に評価するためにレフェリーへ送ると必然的に遅くなりますので、それを避けるために、投稿された論文の約半数は編集部内での審査後に返却いたします。こうした判断は、ネイチャーの編集部では、読者の関心と呼ぶ最適な論文かどうかという編集上の選択です。ネイチャーの編集部では、こうした判断を投稿論文の受け取り後1週間以内に下すようにめざしており、レフェリーに送らない場合はファックス又はEメールでお知らせしています。
- ステップ5 : [レフェリーのレポート]** ネイチャー編集部では、公式評価のために送った論文をレフェリーの意見と照らし合わせて、もう一度評価します。論文を掲載するかどうか決定をくださるのは、レフェリーではなくネイチャー編集部です。編集担当者が著者あてに掲載の是非の判定をレフェリーのレポートのコピーとともに送付します。ネイチャーに掲載されたほぼすべての論文は、レフェリーの意見を参照して少なくとも1度は修正されています。
- ステップ6 : [ネイチャーによる判定]** 当然のことながら、論文著者は自身の研究を素晴らしいものだと考えています。しかし、掲載しないという決定は、専門家の意見を参考にしたうえで、すべての読者の関心と呼ぶことを第一に踏まえて下された判断です。読者の大部分は論文著者とは研究分野が違うからです。これは、論文で報告された研究成果に対して専門的な立場からその質(論文の優劣)を判定したものではありません。
- ステップ7 : [最後に]** どうか以上の手続きを見てくじけたりなさらないように。これらは論文を入念に評価するために避けて通れぬものであり、ネイチャーが掲載する記事や論文の完成度の高さに定評があるのも元をいえば、こうした手続きのおかげなのです。

4. Lancet誌

4-1 Lancet誌の紹介



編集責任者：R. Horton

ISSN：0140-6736

Publication：ELSEVIER

インパクトファクター：18.316

創刊年：1823年

1823年の創刊以来、一世紀にわたって医学情報のリーダーとして重要な役割を果たしてきており、現在、世界で最も頻繁に引用される医学雑誌として、総合医学誌の最高峰の地位を確立しています。

4-2 Lancet誌の論文審査 (レフェリー・システム)

「論文投稿のインフォマティクス」山崎茂明著より転載

研究論文である原著 (Article)、短報 (Research Letter) などの投稿論文受理率は10%以下であり、優れた論稿でないと採用されない。同誌の特徴的な記事のひとつである読者からの手紙 (Correspondence) にしても、採用率は40%以下である。

投稿された論文は、そのほとんどが Lancet 誌の編集者によって採否が決められており、外部レフェリーへ審査依頼が回る以前に不採用になっているのが現実である。

それだけに、投稿者は Lancet 誌編集者へ、専門学会誌ではなく総合医学雑誌 (Lancet) へ投稿する必然性を説明できなければならない。

つまり、自らの研究成果の意義を、医学全体で共有する価値のある内容であり、専門領域だけにとどまるものでないことを説得する必要がある。

専門領域で独創性の高さが評価された論文であっても、総合誌に受理されないケースも実際には多く存在する。論文のイントロダクションだけでなく、投稿時に原稿につける手紙 (covering letter) で編集者へその意義を明瞭に記載すべきである。

Lancet 誌の執筆ガイドラインには「成功するための方法は、専門の違う同僚に投稿原稿をみせることである。もし、同僚が理解できないなら、Lancet 誌の編集者も同様である」と記載されている。

4-3 Lancet誌の採用率

「Information for Authors」より「acceptance rate overall ins less than **10%**」

4-4 執筆の際の注意事項

「論文投稿のインフォマティクス」山崎茂明著より転載

Lancet誌の「Guideline for Authors」には、どのような記事が望ましいか解説されている。投稿執筆規程は、Uniform Requirementsに従っており、Guideline for Authors にエッセンスがまとめられている。

Lancet の原著論文 (Article) は、これまでの臨床や疾病の概念を変えることに寄与するものであれば、多くの投稿論文のなかから採用される。つまり、内容の革新性が求められ、それも専門を越えて関心をよぶものである必要がある。また、日本の雑誌では見られないような要求もあり、本文の最後に Contributors 欄がある。そこには、著者の各々が具体的にどのような貢献をしたのか、その役割を明記しなければならない。単に教室のトップであるとか、研究資金・設備を提供しただけで著者に加わるといった、不適切な著者が入ることを防止している。

短報 (Research letter) は、900 語以内で、図表 2 点以内、文献は 5 件以内で、執筆されなければならない。短報は、投稿受付の知らせが Lancet 誌から発送されず、採用が決まるといきなり校正刷りがファックスで送られてくる。なお、不採用の場合は著者に通知される。症例報告 (Case Report) は、実地医家の診断に困難があり、教育上有益であるような症例について報告するものであり、Lancet 誌では一般に理解されているような「まれな症例」を報告するものではない。600 語以内で記述され、質のよい図が求められる。出版前に、患者 (家族) から同意を得、著者のひとりには症例への臨床責任を有したものであるべきである。Lancet 誌の Correspondence 欄への記事は、すべて同誌編集委員会内部で採否が決められ、外部レフェリーにまわされない。長さは 500 語以内で、図表はどちらか 1 点のみ掲載され、引用文献は 5 点以内に限られるが、原著論文よりは採択率も高く、世界の医学界のフォーラムであり、積極的に投稿できる対象である。

4-5 Lancet誌の執筆規定概要

「論文投稿のインフォマティクス」(山崎茂明著)より転載

論文種類	語数	図表数	引用文献数	抄録
Original Article	3000 語以内	指定なし	30 点以内	250 語で以内 で構造化抄録
Brief Letter	900 語以内	2 点以内	指定なし	100 語で以内 で構造化抄録
Case Repot	600 語以内	質のよい もの	5 点以内	不要
Correspondence	500 語以内	1 点以内	5 点以内	不要

5. New England Journal of Medicine (NEJM) 誌

5-1 NEJM 誌の紹介



編集責任者: Alan C. Woodward,

ISSN: 0028-4793

Publication: Massachusetts Medical Society

インパクトファクター: 34.833

創刊年: 1812 年

1812 年に New England 誌は、New England Journal of Medicine and Surgery の名のもとにボストンで創刊されました。1828 年に Boston Medical and Surgical Journal へ名称変更し、そして 100 年後の 1928 年に現在の誌名となりハーバード大学医学校の教授を中心に編集され、マサチューセッツ医師会の支援を受けて、一地域の医学雑誌から世界の医学雑誌へと発展しました。

192 年以上にわたる歴史を有し世界でもっとも権威ある週刊総合医学雑誌の一つです。

医学界のオピニオンリーダーとして、また情報提供の優れた媒体として、国内外の医師・研究者から高い評価を受けています。最高水準の科学研究が毎週発表される本誌は、ニュース番組や新聞紙上でいち早く本誌の記事が紹介されることも多く、掲載される論文は各種産業・株式市場といった多方面で強い影響を与え続けています。

掲載されるオリジナル論文の 40%以上がアメリカ国外から寄せられ、投稿原稿の年間総数は約 3,600 件にのぼり、そのうち掲載が認められるものは 11%程度にすぎません。

採用された論文は未発表のものに限られ、患者ケアの基礎的教義から最新の治療、手術手技を含む医学の最も重要なテーマまでホットで信頼できる情報を提供しています。

5-2 NEJM の論文審査 (レフェリー・システム)

「論文投稿のインフォマティクス」(山崎茂明著)より転載

毎週 60 編以上の原稿が投稿される。すべて原稿は、編集委員長のデスクの上に置かれることから始まる。そこで、明らかに New England 誌が掲載することのない論文、例えば動物実験だけの研究論文や専門研究者のみを対象にしたような論文はすぐに不採用となる。次に原稿は、8 名のアソシエイトエディターへその主題により配分され、論文の価値や正確さが検討される。必要に応じて、5 名いる副委員長のセカンドオピニオンを参考にしながら、この時点で約 25% 程度が不採用にされる。残ったものは、出版候補として 2 名の外部レフェリーにまわされ、原稿への意見をもらう。新鮮さ、臨床へのインパクト、発表のタイミングなど率直な意見をレフェリーに求めている。大切なポイントは、レフェリーが採否の決定を行うのではなく、決定は編集者の役割であることだ。

レフェリーは、投稿論文のコピーをとったり、同僚にみせたりすることは許されていない。また、もし論文内容と利害の衝突がある場合は、すぐ編集者に連絡し辞退することが求められている。編集者の了解が出ると統計専門家へ回付され、修正レターが著者へ送られる。そして、最終原稿を待ち正式な決定が下される。

5-3 NEJM の採用率

「論文投稿のインフォマティクス」(山崎茂明著)より転載)

現在の採用率は11%以下である。

New England 誌の原著論文 (Original Articles) を主題からみると、心臓疾患 18%、血液疾患 14%、感染症 9%、内分泌疾患 9%といった領域が上位を占めている。

5-4 NEJM の執筆規定概要

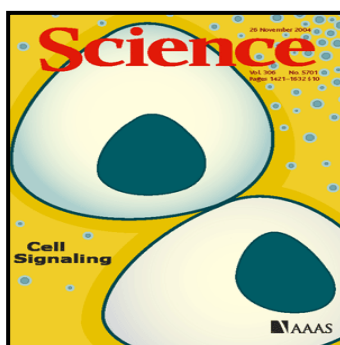
(情報)『NEJM』誌の投稿規定

論文種類	語数	図表数	引用文献数
Original Article	2700 語以内	5 点以内	40 件以内
Brief Report	2000 語以内	3 点以内	25 件以内
Clinical problem-solving	2500 語以内	指定なし	20 件以内
Clinical Practice	2500 語以内	若干数	指定なし
Current Concepts	2400 語以内	4 点以内	50 件以内

※その他の論文種類については、『NEJM』誌の投稿規定をご覧ください。

6. Science 誌

6-1 Science 誌の紹介



編集責任者: Donald Kennedy

ISSN: 0036-8075

Publication: American Association for the Advancement of Science

インパクトファクター: 29.162

創刊年: 1880 年

Science 誌は、1880 年トーマス・エジソンによって創刊され、その後アレキサンダー・グラハム・ベルに引き継がれました。以来 120 年の間、各時代の要請に応じて、物理学とエンジニアリング、生命科学、コンピュータ科学等をカバーする最も権威ある科学誌の一つとして、また世界的に高い評価を得ている国際誌として、常に学際を越えて世界の科学界をリードし、影響を与えています。ワシントン D.C.と英国ケンブリッジにオフィスがあり、科学に関するあらゆる分野からの投稿を受け付けます。掲載のための競争は激しく、多くの論文は詳細な検討まで進むことなく返却されてしまいます。強い関心をひく新しい概念を提示する論文が優先されます。

6-2 Science誌の論文審査(レフェリー・システム)

(情報)『Science』誌投稿規定

提出された論文はすみやかに審査され、掲載されるよう努力が払われます。
提出・審査過程は完全に電子化されています。論文はその分野の知識を有する編集者が担当しますが、ほとんどの論文は審査担当編集委員会がその適切さを評価し、担当編集者は、論文を選抜する際に委員会による意見を考慮します。
強い関心をひく新しい概念を提示する論文が優先され、評価の低かった論文の著者には1、2週間以内に電子メールで通知されます。米国科学振興協会(AAAS)の会員であるかどうかは論文掲載の選抜基準とはなりません。論文は2名以上の匿名外部審査員により詳細に審査されます。この匿名制度はScienceのポリシーです。
審査員には論文送付前に連絡をとり、1週間から10日以内にコメントを返すよう依頼します。迅速な評価を必要とする論文の場合、審査の過程を大幅に短縮することも可能です。採用論文は必要に応じて精度や明解さを向上させるため、または長さの調整のために編集されます。関心や相対的な評価の違いを理由に再提出することはできません。
審査員の重大なミスによって不採用となった場合には再提出も考慮されます。
論文の中には潜在的に安全保障への懸念を有するものがあります。
このような論文は、編集長がさらに評価し、必要に応じてその分野の専門知識を有する外部審査員に相談します。ほとんどの論文は、受付後4～8週間で発表され、選ばれた一部の論文は受付2週間以内にScience Express (www.sciencexpress.org) で発表されます。

6-3 Science誌の採用率

「論文投稿のインフォマティクス」(山崎茂明著)より転載

研究論文について、投稿の10%だけが受理されている。論文審査は外部レフェリーにまわる前に、約20名のScience誌編集者と約100名の優れた研究者からなる論文審査評議会(Board of Reviewing Editors)メンバーによる内部審査がなされ、投稿論文の65%がこの段階で不採用になっている。

6-4 Science誌の執筆規定概要

(情報)『Science』誌投稿規定

論文種類	語数	図表数	引用文献数
Research Article)	4000 語以内	6 点以内	40 点以内
Brevia	600～800 語	6 点以内	6 点以内
Reports	2500 語以内	4 点以内	30 点以内
Reviews	誌上4頁	—	40 点以内

※その他の論文種類については、『Science』誌の投稿規定をご覧ください。

7. Annals of Internal Medicine誌

7-1 Annals of Internal Medicine誌の紹介



編集責任者: Donald Kennedy

ISSN: 0003-4819

Publication: American College
Physicians (ACP)

インパクトファクター: 12.427

創刊年: 1927 年

Annals of Internal Medicineは1927年にAmerican College of Physicians (ACP) により創刊されています。アメリカにおける購読者の61%は内科医であり、39%は内科を副専門領域とする医師です。

このAnnals誌の目標は、内科の臨床と研究における卓越さを保持することにあるようです。Annals誌のインパクトファクターは近年上昇しており、内科学の中心的な雑誌と位置づけることができます。論文審査システムは1960年から導入しており、また、EBM推進の基盤となる構造化抄録は、他紙に先がけ1987年に開始しています。日本からの投稿や掲載は少なくなく、アメリカ国内を中心とした雑誌といえます。1月と7月の最初の号に年2回掲載されているInformation for Authorには、注意事項とともに編集製作の現状が公開されています。

7-2 Annals of Internal Medicine誌の論文審査(レフェリー・システム)

「論文投稿のインフォーマティクス」(山崎茂明著)より転載

これまで、あまり具体的に語られることのなかった論文審査についても、その実態を公表している数少ない雑誌のひとつである。2001年の実績で、投稿された論文の15%だけが採用されており、ほとんどの論文は受理されていない。投稿された原稿の50%が、通常2名の外部リフェリーに審査が依頼されている。残りの半数は、編集者によるチェックの段階で不採用になっている。編集者は、コンピュータデータベースに蓄積された1万3千名の審査員のなかから選択される。このファイルのなかには、各レフェリーの論文審査への評価も記録させている。レフェリーは、審査の依頼を受けた投稿論文をコピーすることは許されておらず、通常3週間で審査するよう求められている。つまり親展文書として注意深く扱われるべきものである。また、著者は論文審査をして欲しくない個人名があれば、投稿時に手紙でその理由を編集者に示す必要がある。これは、論文審査時に生じる危険のひとつである、レフェリーによる論文内容の盗用から、著者を守るためである。プライオリティに注意しなければならない投稿の際には、著者は競合しているグループや研究者を指定して、審査論文がまわらないよう編集者へ伝えるべきである。

7-2 Annals of Internal Medicine誌の採用率

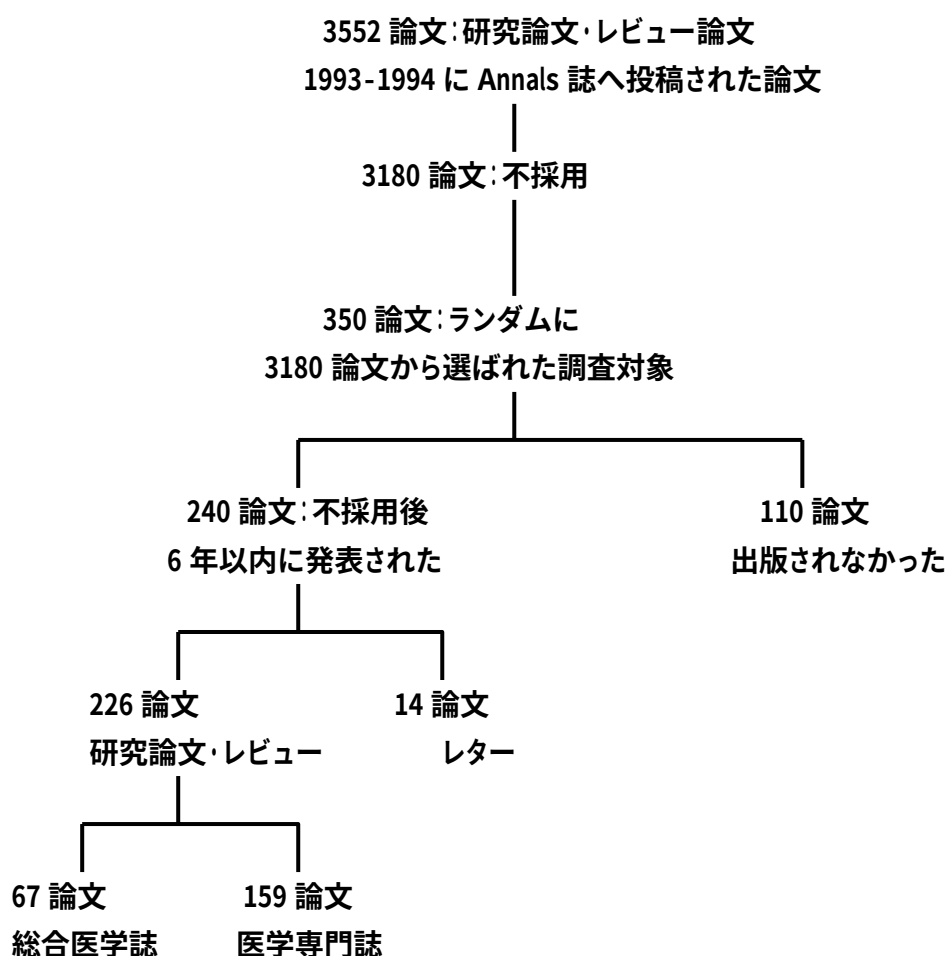
投稿された論文の15%だけが採用されています。

7-3 Annals of Internal Medicine誌に不採用になった論文の運命

「論文投稿のインフォマティクス」(山崎茂明著)より転載

このAnnals誌に投稿され不採用になった研究論文が、その後どのような運命をたどったのかが調査されている。1993年から1994年にAnnals誌で不採用になった350論文を対象にし、データベースや雑誌の索引などを利用して、フォローアップ調査がされた。350論文の中の240論文(69%)が、平均18ヵ月後に出版されていた。発表された雑誌のタイプは、Annalsと同じ総合誌ではなく、専門誌を中心に発表され、それらの平均インパクトファクターは3.09であった。Annals誌に不採用になった論文は、よりインパクトファクターの低い専門誌を中心に1年半後に出版されていたことになる。

Annals誌の原稿様式については、Article(原著)、Brief Communication(短報)、Letter(読者からの手紙)など、原稿量、抄録のタイプ(構造化か非構造化)、図表や参考文献数、簡単な内容記述などが、わかりやすく表にまとめられている。1998年から、利害衝突についての記載フォームが用意されており、著者は署名して提出することが求められている。



8. The Journal of the American Medical Association (JAMA)

8-1 JAMA の紹介



編集責任者: Catherine D. DeAngelis

ISSN: 0098-7484

Publication: American College
Physicians (ACP)

インパクトファクター: 21.455

創刊年: 1883年

1883年の創刊以来、全ての医師及び医療関係者に最新の治療、医療情報を提供し続けているアメリカで最も権威のある医学・医療雑誌のひとつです。実際上の全ての専門領域、医薬品情報をカバーしており、その記事は、世界中で多くの論文等でも引用されています。専門家の寄稿や、臨床及び科学的側面を含んだ記事など内容も豊富で、特に心臓病、感染症、呼吸器、代替薬、ガン、老人病、エイズ等を含む、45の主要領域を設定しています

8-2 JAMA 日本語版の紹介



編集責任者: 岩石 隆光

ISSN: 0388-2888

Publication: 毎日新聞社

インパクトファクター: なし

創刊年: 1980年

JAMA (The Journal of the American Medical Association) は、米国医師会 (AMA) が毎週発行する医師向けの雑誌です。

JAMA 日本語版は、1980年に故武見太郎日本医師会会長と AMA と毎日新聞社の間に契約が成立して以来、毎月1回発行されています。

本誌は、勤務医を対象として編集され、JAMAに掲載された最新の新薬の情報、新薬の二重盲検成績、Framingham Heart Study、MRFITをはじめとする臨床疫学成績、医学教育情報などが毎号掲載されています。特に JAMA に掲載された研究報告は、医学雑誌や研究者に引用される、いわゆるインパクトファクターが高いことでもトップを争う状況で、JAMA の評価を高めています。

9. British Medical Journal (BMJ) 誌

9-1 British Medical Journal (BMJ) 誌の紹介



編集責任者: British Medical Association
ISSN: 0959-8146
Publication: British Medical Association
インパクトファクター: 7.209
創刊年: 1853年

BMJ は英国医師会(British Medical Association: BMA)のオフィシャル誌で、世界に 10 万人以上購読者を持つ著明な医学系ジャーナルです。

1853 年に創刊されましたが、前身の Provincial Medical and Surgical Journal は、1840 年に発刊されました。この年は、ちょうどイギリスにおける近代郵便制度にあたるペニーポストが始まった年で、郵便システムを基盤にして、広く流通していくことになりました。

「Advice to contributors」(<http://bmj.com/advice/>)に、投稿に必要な情報が掲載されています。現在の Smith 編集委員長は、オーサーシップやレフェリーシステムの改善に向け、革新的なアイデアを実行に移しており、出版倫理面で充分配慮した原稿にまとめる必要があります。

9-2 British Medical Journal (BMJ) 誌の採用率

国	2000 年 投稿数	2000 年 採用率	1999 年 投稿数	1999 年 採用率	1998 年 投稿数	1998 年 採用率
イギリス	3517	15%	3583	16%	3182	18%
アメリカ	290	16%	282	16%	180	18%
オランダ	187	10%	185	6%	183	8%
オーストラリア	186	9%	165	12%	144	17%
カナダ	129	14%	86	19%	65	14%
フランス	127	2%	101	8%	107	4%
イタリア	115	3%	100	3%	84	2%
ドイツ	114	10%	103	8%	97	7%
インド	84	5%	69	4%	58	7%
日本	46	2%	46	0%	47	6%
全体 (すべての国)	5751	12%	5603	14%	4976	15%

We can publish only about 12% of the 6000-7000 articles we receive each year